

1 事業総括

経営上もっとも重視される各月の月初人員が平均で64.1人（昨年68.1人）と定員を大きく割り込んだ。入所申込者の対人関係上の課題の困難性、実施機関における居宅保護の推進などの背景もあり、現物給付、集団生活に加え多人数部屋である当施設への入所を躊躇する事例が相変わらず多く、月末キャンセルなどで月初人員確保が難しかった。入所者数は目標の95名にはわずかに届かなかったが、昨年（93名）とほぼ同数で入所需要には応えている。退所者では任意退所者が増加し目的達成率は62.7%と昨年（66.7%）より下回ったが、入所者の多様性を考慮すれば概ね安定した実績と考えている。全入所者のうち精神疾患や知的・発達障害を持つ方の割合が62.7%と過半数を占め、65歳以上の高齢者も22.0%と高い割合を示している。（年度末日）

このような状況において、一時入所事業による体験入所や入所前見学を丁寧に実施するなど、施設生活に対する疑問や不安をなるべく解消し、納得して施設利用できるよう力を注いでいる。

就労支援では「働く機会の提供」を重視し、所内作業を中心に多様なプログラムを推し進めてきた。仕事が途切れるなど外注メインの所内作業は安定を欠き、さらにメンバーが定着しないなど多くの課題を抱えており、次年度は自主製品の製作を試行し活性化を図る。

地域との関係では、地元商店会主催の「サマーフェスティバル」、近隣の淀橋市場（東京都中央卸売市場の一つ）協会主催の「淀橋市場祭り」、町会として参加する「地域防災訓練」に職員と利用者で参加・協力し、地域住民・団体との交流を通じて良好な関係を維持している。

〔利用実績〕

	年度 累計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入所者数	92	10	9	9	9	8	6	8	6	7	5	4	11
退所者数	102	9	9	10	8	14	4	12	7	7	6	8	8
月末在籍数	Ave. 64.0	70	70	69	70	64	66	62	61	61	60	56	59
28年度	Ave. 67.9	71	68	69	67	68	71	64	70	64	67	67	69

〔退所理由〕

（単位：人）

	自 活	居 宅 移 管	入 院 除 籍	他 施 設 移 管	任 意 退 所	無 断 退 所	命 令 退 所	等 同 居 帰 郷 ・ 親 族	拘 留 除 籍	死 亡	促 進 社 会 復 帰	そ の 他	合 計
29年度	3	48	6	7	24	5	3	1	1	0	2	2	102
28年度	2	49	5	9	12	6	4	1	1	2	2	0	93

2 主要目標に対する成果

（1）施設利用促進に向けた取り組み

福祉事務所を対象とした見学会を6月に開催。特人厚職員による施設利用方法の説明を含め、更生・宿提の特徴理解と施設利用の促進を図った。（18福祉事務所36名参加）

（2）精神科疾患・障害を持つ入所者増加への対応

精神科入院者及び医療スタッフを対象に、退院に向けたプログラムの一環として施設見学会を定期開催した。地域生活への中間施設として更生施設が利用される状況を鑑み、淀橋荘に限定せず、更生施設共通の生活環境・支援環境を知ってもらう機会とした。（のべ16名受け入れ）

一時入所事業の実績は5名6回。体験入所としての利用で、うち3名が一般入所となった。

（3）多様な就労機会の提供による就労支援

所内作業に淀橋荘の外構清掃や宿提等の居室清掃等をプログラムに加え、就労支援の多様化と拡充を図った。職業相談員、バックアップセンターとの連携により、一般企業への新規就労者は23名の実績。（昨年18名）。

（4）地域貢献・地域交流の維持促進

毎月のクリーンデーでは淀橋荘周辺を中心に町内清掃を実施した。急遽決まった地元商店会の夏祭りの協力要請には、会場設営から出店運営まで全面的に協力した。その他、町会主催の地域防災訓練、淀橋市場の市場祭りに職員と利用者が積極的に参加し、地域との交流を深めた。

3 運営管理	
<ul style="list-style-type: none"> ・更生・通所会議を通じて個別自立支援プログラムを共有し、併せて日々支援内容を毎朝の引継会議で確認することで、組織的な支援を行った。 ・服薬管理簿及び個人別処方一覧により、各利用者の健康状態に配慮した服薬管理を徹底した。 ・職員会議でヒヤリハットを共有し、服薬管理や利用者対応に関する業務改善に取り組んだ。 ・苦情（食事の異物混入等 1 件）は制度に基づき話し合いの場を設け、本人の同意を得た。 ・意見箱での匿名の意見等は、毎月の利用者懇談会を通じて回答、周知、注意喚起を行った。 ・ステップルーム（9 室）を活用し、居宅生活に向けた実質的な訓練を行うほか、4 人部屋では対応困難なケース等に対し、柔軟な受け入れ、支援を行った。 ・緊急枠についても、2 名枠に対し年間 17 件と、積極的な受け入れを行った。 ・年 2 回のバイキング食、昨年度より導入した駅弁風メニューは好評につき継続した。 ・給食業務の効率化と欠食の削減に向け、選べる朝食メニューを期間限定で試行した。 ・ステップルーム利用者のレシート管理を通じた食生活アセスメント、実際のアパート生活を想定し、お惣菜を活用した中食実習等、居宅生活を想定した支援を実施した。 ・武蔵野大学のゼミと合同で困難事例検討会を開催し、有意義な議論を行うことができた。 	
4 保健衛生・環境整備	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期健康診断（年 2 回）やインフルエンザ予防接種（年 1 回）を行い、日常的な手指消毒の奨励と冬季の館内アルコール消毒（ノロウイルス対策）を行った。 ・定期的な防虫調査・消毒のほか、入所時の生活害虫確認を徹底したため、トコジラミ等の繁茂を完全に防止した。 ・栄養士、看護師が連携して、全利用者の BMI 測定と食事指導による健康増進に取り組んだ。 ・利用者の生活に支障がないよう、厨房空調機器の更新と食堂電源改修の環境整備工事を行った。 ・消防設備、受水槽等の法定点検を行った。 	
5 施設の社会化（地域交流事業及び施設機能強化推進事業）	
<ul style="list-style-type: none"> ・地元商店会の「サマーフェスティバル」、淀橋市場協会の「淀橋市場祭り」等、地元主催の行事等に、利用者・職員ともに積極的に参加した。 ・新宿区内の更生保護施設連絡協議会（年 2 回）に参加するほか、関東管内更生保護施設職員研修に協力し、見学受け入れを行った。 ・実習生(社会福祉士)を受け入れた。(4 校 5 名) 	
6 福祉サービス第三者評価 評価結果	
評価機関 ：特定非営利活動法人 NPO サービス評価機構	実施期間 ：H29. 10. 26～H29. 12. 2
特に良いと思う点 <ul style="list-style-type: none"> ① 重い精神症状を持つ利用者の社会復帰にも関係機関と連携し支援している ② 大学ゼミとの共同で事例検討会を定期化する等、後継の教育に取り組んでいる ③ 地域団体が実施するイベント・催しなどに利用者・職員で参加し、地域との良好な関係を維持継続している 	施設コメント ： 精神疾患や知的、発達障害をもつ方の入所が過半数を占める状況が続く中で、医療との連携強化や個々の状況に合わせた支援の取り組んでいること、積極的な地域交流など、評価された点はこれからも無理せず地道に継続したい。 一方、改善を指摘された点、特に③は職員の意識だけでなく、日誌様式の見直しや引き継ぎ会議の運用など、様々な方法で改善に取り組む。
さらなる改善が望まれる点 <ul style="list-style-type: none"> ① 利用者から活発な意見が出るような利用者懇談会の在り方について検討されることを期待する ② 精神疾患をもつ利用者支援のスキルの水平展開を期待する ③ 職員間の利用者情報の共有に関しさらなる工夫とその徹底が望まれる 	